

京商ビジョン



～未来につなぐ知恵産業の創造～

京都商工会議所 行動理念

1. 京都商工会議所は、1200年の歴史・伝統・文化に培われた京都を愛し、世界に開かれた活力ある京都産業の発展を目指します。
2. 京都商工会議所は、進取の気風と文化を育んできた先人の精神を継承し、京都の都市格の向上を目指します。
3. 京都商工会議所は、会員のニーズに的確に対応し、信頼され、行動・挑戦し続ける地域総合経済団体を目指します。

京商ビジョン FUTURE の策定にあたって

人口減少や深刻化する人手不足問題、経済のグローバル化、デジタル化の進展など、社会やビジネスを取り巻く環境は大きく変化しています。こうした変化を、次なる成長に向けた新たなニーズが顕在化するチャンスと捉え、新たな価値創造に挑戦することが重要となります。

国際社会では、SDGs (Sustainable Development Goals) の達成に向けた取り組みが広がりを見せています。持続可能な社会を実現するためには、地域や企業、人々の多様な知恵を活かすとともに、「連携」や「協働」の輪を拡大させていかなければなりません。とりわけ、イノベーションの中心を担う企業においては、新たな社会ニーズへの対応や社会課題の解決に、ビジネスを通じて貢献することが求められています。

京都商工会議所では、これまで4期・12年にわたって、「知恵産業のまち・京都の推進」を基本方針に掲げるビジョンを策定・改訂してきました。地域の未来像をオール京都で共有する「京都ビジョン2040」では、「知恵産業のまち」が重点分野として位置づけられ、多様な知恵ビジネスを集積させる取り組みは、行政や他の産業支援機関にも広がっています。「知恵ビジネスプランコンテスト」をはじめ、本所やオール京都の支援によって知恵に関する認定を受けた企業は1,900社を数え、知恵を活かした経営計画の策定に挑戦する「知恵ビジネス予備軍」を加えると約3,000社に上るなど、多様な知恵産業群の集積が進みつつあります。

「京商ビジョンFUTURE」では、京都経済百年の計として本年3月にオープンした京都経済センターを基盤に「知恵ビジネス」のさらなる創出・集積をはかるとともに、「京都版イノベーション・エコシステム」の構築に向けた産業人材の育成や、文化庁の本格移転を見据えた文化と創造性あふれるまちづくりに取り組んでまいります。

令和の新時代を迎え、京都の未来を担う「人」や「産業」、そして「知恵」を数多く生み出し、次世代へと継承・発展させていきたい、という思いを「FUTURE」というネーミングに託しました。京都の未来を創造するために、会員の皆さんと力を合わせ、「知恵産業のまち・京都」をさらに推進していきたいと考えております。

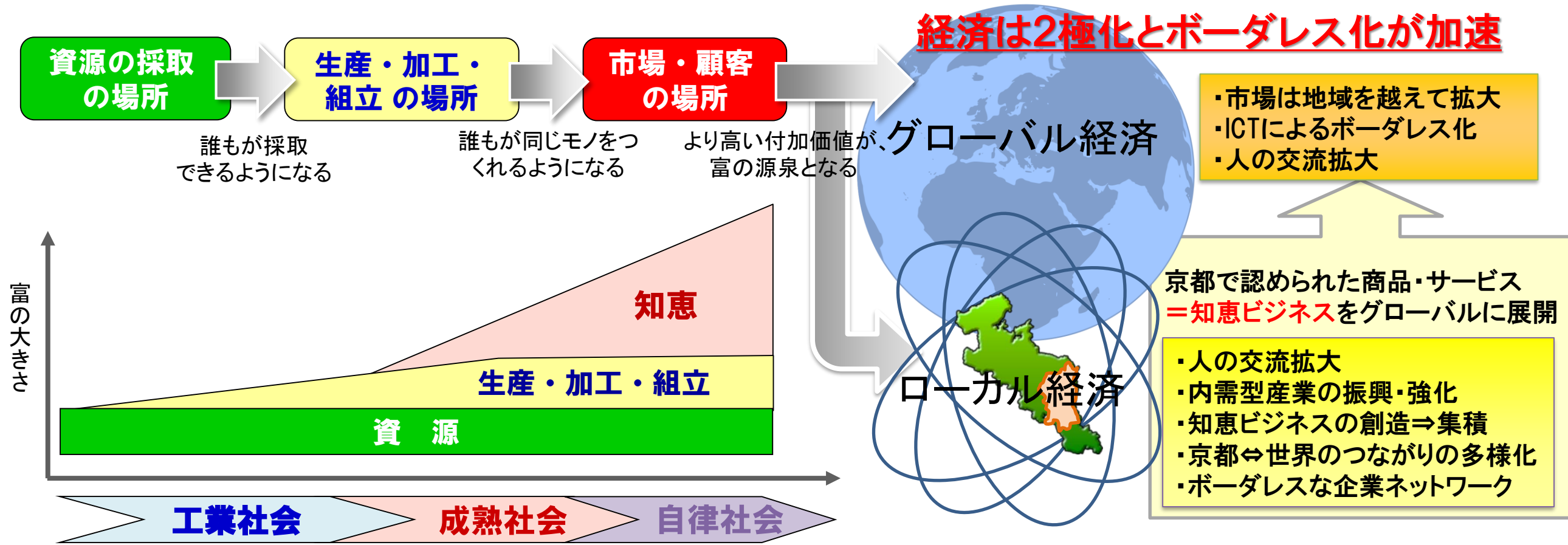
令和元年11月5日

京都商工会議所 会頭 立石義雄

目次

- 時代背景 持続可能な発展へ向け 企業や人々の多様な知恵を活かす時代へ …… 2
- ビジョンのコンセプト 未来につなぐ知恵産業の創造 …… 3
- ビジョンFUTUREの施策体系図 …… 4
- めざしたい姿 未来を担う多様な人材が花開くまち …… 5
- めざしたい姿 知恵を展開し、活力ある未来を拓くまち …… 6
- めざしたい姿 創造性にあふれ、世界に開かれたまち …… 7
- 施策の顧客・パートナー 会員企業と共に可能性をひらく京商 …… 8

持続可能な発展へ向け、企業や人々の多様な知恵を活かす時代へ



価値観	モノの豊かさ(大量生産・販売・消費)	モノ + 心の豊かさ
産業	1・2・3次産業、系列化・下請け	6次産業化、ICT化、地産地消 グローバル・ソーシング、
日本	中央集権(東京一極集中)	機能分散、地方創生、地域間 連携、ダイバーシティの深化
世界	グローバル化、地域間競争	グローバル⇄保護主義、 持続可能性の追求

《京都産業の継続的な発展》
《持続可能な開発目標(SDGs)》



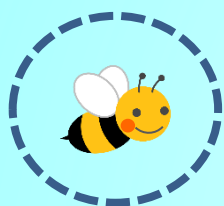
- 社会のボーダレス化が進み、市場・顧客に誰もが容易にアクセスできるようになり、高い付加価値が富の源泉となる時代となる。
- AI技術が進展する中で、多様な人と知恵による創造的な活動が、より大きな付加価値を生み、都市の持続可能な成長の核となる。
- 超高齢化・人口減少に伴う新たな社会ニーズに、地域の生活文化に密着した中小企業の知恵を活かして対応することが重要となる。

未来につなぐ知恵産業の創造

本所では、「知恵産業のまち・京都の推進」を通じて、京都ビジョン2040においてオール京都で共有している地域の未来像「世界交流首都」の柱の一つ「**価値創造都市・京都**」の実現に貢献します。

京商ビジョン『FUTURE』

～集積した知恵をさらに“**開花**”させる～



【ミツバチ】

「6つの機能」を活かして、京都企業と多様な価値をつなぐ京商の役割を表現



【花】

知恵を活かして事業を展開し、地域や市場において存在感を発揮する京都企業を表現



イノベーションの
創発

ソフトパワーの
創造・発信

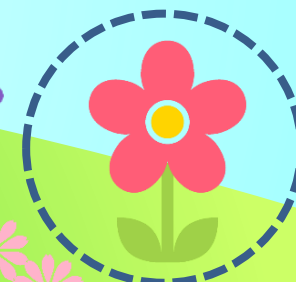
知恵ビジネス
展開のための
橋渡し

強化する
6つの機能

支援機関の
力を結集した
経営支援

行政や
関係機関への
提言・協働

企業の持続的
成長を支える
人材育成



京都府

文化庁

京都市

地域社会

大学・学校

京都経済センターを基盤として、本所が知恵産業のまちづくりの強力なエンジン（推進役）、プラットフォーム（企業、人、情報をつなぐ場）となる

【京商ビジョンNEXT】集積（2017～19年）

オール京都の支援によって知恵ビジネス企業約3,000社を集積した。



基本方針

3つのめざしたい姿

強化する機能・施策の方向性

施策の顧客、
パートナー

知恵産業のまち・京都の推進

未来を担う多様な人材が**花開く**まち

人材の
活躍・
育成力

100年先を見据え、ベンチャースピリッツに溢れた産業人材を発掘・育成し、革新的なビジネスが生まれ始めている。本所の経営支援や人材育成、交流事業等を通じて、未来の京都を担う経営者や課題解決型の人材を数多く生み出し、多様な分野で活躍している。

イノベーション創発機能

新たなベンチャーやイノベーション人材を発掘・育成するエコシステムの構築推進

人材育成機能

企業の成長を支える多様な人材の確保・育成を支援

知恵を展開し、活力ある未来を**拓く**まち

産業の
成長力

社会全体が急速に変化する中で、「知恵」の重要性はさらに高まっている。知恵に基づいたビジネスを展開する京都企業は、ボーダレス化する社会の変化を機会と捉え、培ってきた強みを新たな分野やステージで展開することで、成長を加速させる。

経営支援機能

未来志向で経営強化に取り組む中小企業の支援

橋渡し機能

知恵を活かし既存の枠を超えたビジネスを展開する企業の成長を後押し

創造性にあふれ、世界に**開かれた**まち

まちの
ブランド力・
吸引力

文化庁の本格移転や大阪・関西万博を見据え、観光やまちづくりの課題を克服し、新たな時代の京都の価値を提示することで、国内外の交流を拡大している。また、企業と地域が一体となり、持続可能で先進的なまちづくりを実践することで、創造性あふれる人々が集まっている。

創造・発信機能

文化などのソフトパワーを活用し、まちや産業の創造性を高める

提言・協働機能

未来の活力創造や課題解決への提言活動、協働を加速

会員

会員企業と共に可能性をひらく京商

【ビジョンの **推進力** を高めるポイント】

(一社)京都知恵産業創造の森や京都経済センターの入居団体、地域との **連携と協働**

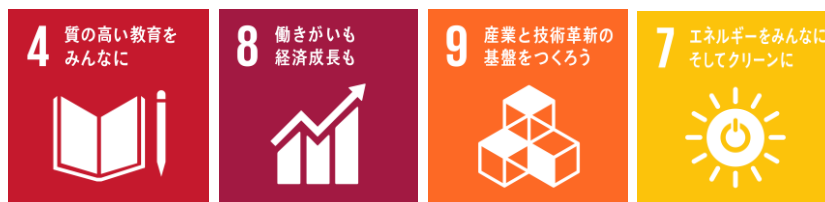
① イノベーション創発機能の強化

新たなベンチャーやイノベーション人材を 発掘・育成するエコシステムの構築推進

AI時代、デジタル社会のイノベーションは、多様な人と知恵がつながることで生まれる。地域経済の発展を担う人・人材を中心に据え、会員企業の経営者や若手起業家をはじめ、京都で働く人々や若者、学生等が革新的なビジネスを興し、切磋琢磨しながら成長する環境(エコシステム)を整備し、そのビジネスや人材の発掘・育成にむけたメニューを構築する。

重点分野

- 産業人材育成基金(仮称)による未来を担う起業家や萌芽的ビジネスの発掘・支援
- 経済センター入居団体や多様な人々との交流・連携を通じたイノベーション人材の育成支援
- 学生などの若年層向け起業家教育の推進



② 人材育成機能の強化

企業の成長を支える多様な人材の 確保・育成を支援

人材不足の時代にあって、優秀な人材を企業に迎え入れ、育てることが持続的成長の前提となる。多様な人材が活躍するまち京都を実現するために、京都企業と多様な人材が出会い、つながり、成長する場づくりに注力する。また、これまで本所が培ってきた人材育成のメニューに加え、会員企業の人材間の交流を活発化させることで、イノベーションにむけた発想力・行動力やネットワーク力の育成に取り組む。

重点分野

- 多様な人材育成のニーズに応える多階層の研修や業種を超えた交流事業の実施
- 大学や行政等と連携した人材育成や学生と企業が交流する場づくり等による人材確保支援
- 女性や外国人をはじめ多様な人材の活躍促進



③ 経営支援機能の強化

未来志向で経営強化に取り組む 中小企業の支援

経営の安定と成長を実現していくために、複雑化する経営課題に対する中小企業の迅速・的確な対応を全力で支援する。企業の強みを活かして新たな価値を創造する知恵ビジネスの発想を中小企業支援の基盤に位置づけ、経営の各ステージや各企業の経営課題、成長分野等に応じたシームレスな支援を産業支援機関の力を結集して展開する。

重点分野

- 中小企業の経営力強化に向けた伴走支援や中小企業応援センター等との連携支援
- 専門家や地域内外のネットワークを活用したきめ細かい事業承継・事業引継ぎ支援
- 首都圏や海外の成長市場など国内外の販路開拓支援
- デジタル化・自動化・省力化による生産性向上、攻めのIT活用支援



④ 橋渡し機能の強化

知恵を活かし、既存の枠を超えた ビジネスを展開する企業の成長を 後押し

知恵ビジネス企業約三千社の集積をさらに拡大するために、知恵の連携パートナーとなる多様なプレイヤー、アクセラレーターを取り込み、協働や連携の輪を拡大させる。国や地域、業界の枠を越え、知恵ビジネスと相乗効果を発揮して成長する多様な企業、ビジネスとの出会いや連携を促し、新たな知恵ビジネスの成長モデルを発信する。

重点分野

- オール京商体制の集中支援による知恵ビジネスのさらなる創出・集積
- ピッチイベント等によるマッチングやオープン・イノベーションの促進
- 新技術・サービスで豊かな社会を実現する社会課題解決型ビジネスの育成



⑤ 創造・発信機能の強化

文化などのソフトパワーを活用し、まちや産業の創造性を高める

都市のブランド力をベースに国際観光都市の魅力を磨き上げ、文化と産業がクロスする創造性溢れるまちづくりを加速させる。京都に集積する伝統・先端産業のさらなる発展や京都の文化・コンテンツを活かした新産業の創出・育成などを通じて、産業振興とまちづくりの両面からアプローチし、持続可能な都市の成長モデルを発信する。

重点分野

- 暮らしの文化やマンガ・アニメ等のコンテンツを活かした「文化×産業」の創造
- 文化と産業、まちづくりの知恵を基盤とする京都ブランドの継承と深化
- 多様な観光課題への対応や入洛者の満足度向上など、持続可能な観光の振興



⑥ 提言・協働機能の強化

未来の活力創造や課題解決への提言活動、協働を加速

多様な交流によって都市の活力を生み出し、未来の産業やまちづくりを進めていくために、行政などの地域政策、産業政策、インフラ整備等に積極的に関与した上で、必要な政策を提言し、その実現にむけて協働する。京都ビジョン2040をもとにオール京都の連携を強化しながら、都市や産業の発展に不可欠な分野の政策提言、基盤整備の促進等に取り組む。

重点分野

- 政策実現のための要望・提言活動の強化と地域課題に関する調査・分析力の向上
- 将来を見据えた交通インフラや災害対策など都市基盤整備の促進
- 地域の課題に応じた協働のまちづくりの促進



会員企業と共に可能性をひらく京商

3つのめざしたい姿を実現するために、会員参画型の事業や
会員ニーズを踏まえたサービスを強化し、会員満足の上昇を図る

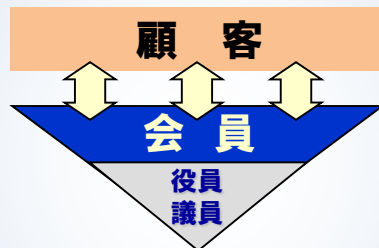
会員 × 人材の
活躍・育成力

会員 × 産業の成長力

会員 × まちの
ブランド力・吸引力

ビジョンに基づく各種事業の効果を高める組織運営

ボトムアップ型の組織運営



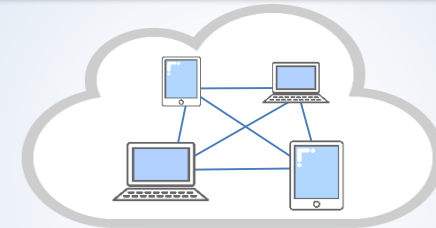
顧客を創造する会員が主役であり、自律した部会運営のもと、会頭を含め役員・議員が支える「ボトムアップ型」の組織として、逆三角形の運営を展開します。

職員の資質向上



職員の経営支援力、マッチング力、課題解決力を向上させるために、キャリアや業務に応じた研鑽・人材育成プログラムを実施します。

デジタル化・データ活用推進



各種データの蓄積と効果的なデータ共有によってサービス・支援を強化するための基盤構築を進めます。電子化・ペーパーレス化を進め、事業の効率化や顧客満足度の向上、組織の強化につなげます。

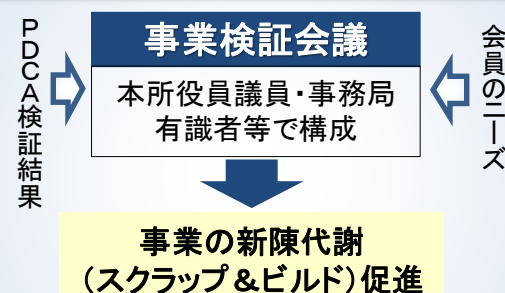
PDCAサイクルによる事業の進化

京商ビジョン(3か年)⇒事業計画(毎年)



ビジョンに基づく毎年の事業計画では、客観的な指標を設定し、PDCAによる効果検証を行います。効果検証をもとに、事業をさらに進化させます。

3年サイクルによる事業の抜本改革



各事業の実施期間は原則最長3年間とし、PDCAによる効果検証結果等を踏まえて、継続・廃止を決定します。

財務基盤の安定



会員増強や会員満足度向上への取組みを強化するとともに、持続可能な組織運営に向けて新たな収益事業の開発・検討を進めます。